

(世界史プリント8-10)

第17章 戦後世界と東西対立 2.第三世界の自立と「雪どけ」

a. 第三勢力の台頭と中東・アフリカ

① 1954 [1]]会議＝南アジア5カ国首脳がアジア＝アフリカ会議の開催などを提案 (インド・パキスタン・セイロン・ビルマ・インドネシア)

② 1954 中国 [2]]首相とインド [3]]首相、「4 [4]] 発表 領土主権の相互尊重、相互不可侵、内政不干渉、平等互惠、平和共存

③ 1955 アジア＝アフリカ会議 ([5]]会議)＝「平和十原則」発表 29カ国 反植民地主義と平和地域拡大を主張＝AA諸国の自己主張へ 指導者 スカルノ＝[6]] ネルー＝[7]]

④ イラン…中立を宣言したにも関わらず、英・ソ両軍の進駐を受ける→戦後、民族主義運動の高まり 1951 [8]]首相、アングロ＝イラニアン石油の国有化 →国王によるクーデタ、親英米路線に転換 1963～「白色革命」

⑤ 1945.3 エジプトなどアラブ7国、[9]]を結成、統一行動をめざす

↓
パレスティナのユダヤ人国家＝[10]]建国を巡って[11]]戦争発生 →多数のパレスティナ難民の発生、対立激化

⑥ エジプト 1922 イギリス保護権を廃止(＝エジプト王国に)、スエズ運河地帯の駐兵権などを維持 1952 [12]]、ナセルら自由将校団の革命 国王を追い共和政樹立(エジプト革命)

[13]]大統領…積極中立政策、社会主義に接近(中国承認など)

1956 [14]]の建設をめぐり、[15]]を国有化 →[16]]戦争発生(対英・仏・[17]]→世界の批判を浴びる)

⑦ 仏領北アフリカ 1956 チュニジア・モロッコの独立(cf.1951 リビア←イタリア、戦後初の独立) 1954～62 [18]]内戦…民族解放戦線(F L N)の対仏武装闘争 →フランスの政変を引き起こす(第5共和政(大統領[19]])へ)→1962 独立

⑧ 1957 初の黒人共和国[20]]独立 指導者 エンクルマ

⑨ [21]]年 「アフリカの年」17カ国独立

⑩ 1963 [22]](OAU)結成 ([23]]で開催)

エチオピア
⑪ 1961 [24]]会議＝ベオグラード…チトーら 25カ国 平和共存・民族解放の援助・植民地主義の打破 呼びかけ人[25]]＝ユーゴスラビア、[26]]＝エジプト、スカルノ、ネルー

b. 「雪解け」の進行

① 1953 ソ連で[27]]死亡→[28]]書記長(第一書記)に ・1956 国際政策…[29]]をとえ、東西間の[30]]政策を表明

・1956 [31]]の実施(ソ連共産党第[32]]回大会) 政治犯の釈放、言論統制の緩和(雪解けの進行) 大陸間弾道ミサイル(ICBM)開発・[33]]成功→西側への優位確立(?!)

→東ヨーロッパ諸国の動揺(ハンガリー事件など)、中国との対立(中ソ論争)

② 東西対話の進行 1953 米大統領に共和党の[34]]就任(←[35]](民))

1953.7 朝鮮休戦協定(ソ連の提案) 1954 [36]]会議＝インドシナ戦争休戦

1955 オーストリア国家条約＝占領状態終結、永世中立国として独立

1955 [37]]会議…米・英・仏・ソ

1956 コミンフォルム解散(1947～) ※1955 ワルシャワ条約機構の成立

1959 フルシチョフの[38]]訪問＝キャンプデーヴィッド会談

③ 冷戦の再燃 1961 東ドイツの人口流出阻止のため[39]]構築 1962 [40]]危機＝ソ連のミサイル基地建設←→アメリカ(ケネディ)海上封鎖

④ 1963 ケネディ暗殺、1964 政変でフルシチョフ失脚

<キューバ革命とキューバ危機>

① キューバ、1898年の[41]]戦争で[42]]から「独立」 →1902、憲法に[43]]条項をいれさせ、アメリカの干渉を認めさせる アメリカ資本の進出、サトウキビ農場や製糖工場の大部分を支配、モノカルチャ化

② 1934 米[44]]の善隣外交→プラット条項を撤廃、完全な独立国に →1940 親米的なバティスタが大統領に当選→しだいに独裁化、腐敗化

↓
③ 1959 [45]]、ゲバラらとともに、バティスタ政権を倒す([46]]) →[47]]を実施、[48]]の接收→アメリカとの対立激化

↓
④ 1961 米([49]]大統領)、キューバと断交→亡命キューバ人の武力侵攻に失敗 →[50]]宣言発表＝[51]]に接近→核ミサイル基地建設へ

⑤ アメリカ、ミサイル撤去をめざし海上封鎖実施([52]]) →核戦争の危機現実化 →ソ連([53]]書記長)のミサイル撤去により危機回避